

## 第2回 SSH 講演会

昨年度から SSH 講演会を行うことになり、第2回目を9月25日(木)に実施しました。生徒の主体的な学習を支援する取組ですが、今回は生徒の探究的な学びや進路選択の一助となるような6つの講演を企画しました。今号では、その様子や受講した生徒の感想を紹介します。

- ① 講演名：「前橋の街の未来は自分たちでつくろう 建築からまちづくりへ」  
講 師：株式会社 石井設計  
代表取締役社長 石井 繁紀 様

- ② 講演名：「材料物性学入門」  
講 師：東北大学 工学部 材料科学総合学科  
教授 齊藤 雄太 様



講演①の様子

講演②の様子

- ③ 講演名：「分子生物学と医療」  
講 師：東京科学大学 M&D データ科学センター  
教授 清水 秀幸 様

- ④ 講演名：「 (対談方式) 」  
講 師：前橋地方裁判所太田支部  
裁判所書記官 渡邊 泰成 様  
前橋地方裁判所事務局  
総務課課長補佐 竹内 一真 様  
総務課課長補佐 葉 高宏 様



講演③の様子

講演④の様子

- ⑤ 講演名：「魚釣りにハマっていた高校生が  
魚類の研究にハマった話」  
講 師：東京大学 大学院農学生命科学研究科  
生圏システム学専攻 水域保全学研究室  
准教授 平瀬 祥太郎 様

- ⑥ 講演名：「ナッジ理論で考える情報デザイン：  
尾瀬のトイレチップから学ぶ  
ナッジとスラッジ」  
講 師：NPO 法人 PolicyGarage  
自治体ナッジシェア 坂部 佑磨 様



講演⑤の様子

講演⑥の様子

### 生徒の感想

・地方創生は本来その地域の住民が行うべきものだとわかってはいたが実際に事業を行っている民間団体は少ないというのは初めて知って驚いたし、机上の空論とならないよう自身が主体的に地域に働きかけることで周りから見てもらえるようになったのは、私たちが今後見習っていくべき姿なのかなと思いました。

・半導体の仕組みについての知識も深めることができ、材料物性学に興味を持つことができました。また、物理と科学が密接に関わり合っている事がわかったので、高校での勉強をもっと頑張りたいと思いました。今回の講義はとても興味深いものでした。

・今日世界中の人々を苦しめている病気の解明のヒントが高校生物に隠されていて関心を持った。医学部の大変さも知ることができてよかった。知ることができてよかった。

・今回の講演を通して、日本の独立機関の一つの立場としてや、裁判を受ける人の人生や結果などを踏まえて大きな責任感のある仕事だと感じた。あまり感謝のされない仕事だとおっしゃっていたが、裁判の手続きに何事のミスも起こさせないように仕事をするのがやりがいだとおっしゃっていて、とてもかっこいい職業だと感じた。

・講演のなかで「楽しい」など自分の興味や関心を原動力に研究をしていると感じた。自身も普段の生活でも興味関心を大切に勉学に励みつつ様々な体験をしていきたいと思った。

・何か課題を解決するときナッジ理論を使えばユーザが自発的に好ましいことをするよう強制せずに促せるので win-win な関係になっており、とてもいい問題解決のアプローチだと思いました。